

15-11 カムイユカラ「フリ ニツネプ チャクチャクカムイ
(フムフムトリヤテ)」解説

語り手：鍋澤ねぷき
聞き手・解説：萱野茂

萱野：えーと、あの一今のは、この huri [フリ] という大きい鳥のはなしなんですけれども、んー、アイヌでの、その空想上の鳥だと思われま

鍋澤：うん。

萱野：えー、私は一匹の、一羽の huri でありました。ある日のこと海辺へ行くと、大きな etaspe と言ったら？ これは、

鍋澤：TONTTO sekor si... sisam ye p [和人がトドと言うもの]。

萱野：トド、あーそうかい。大きなトドがいたので、そのトドを、トドを、んー、爪で抑えて引き上げようとした。

そうすると、そのトドが力を入れると自分、その huri が、んーと、真ん中まで、海の中へ引きずられ、引きずりこまれそうなる。また、ある時には自分が力を入れると、そのトドが胴、真ん中を、水面に引き上げる事ができる。そういう格闘をした後に、どうやら、その、んーそのトドを殺して、そして自分の巣を、巣に持ってきた。そして、そこで悠々として食っていた。

そうすると、そこへ他のいろいろな神様がやってきて一口食べさせて、少しごちそうして、そう言っても一口も食べさせずに、そう言ってくる神様をひと爪でこうかっちゃいて [引っ搔いて] 殺しちゃう、そうやりながら食べておったある時にまた来たのは cakcak okkaypo [ミソサザイの男] といって、あの、よくこれ、あの一アイヌではその鳥を大切にしますね、あの茶色の

鍋澤：んー、んだんだ。

萱野：小さい鳥で、

鍋澤：pon pon cikap [小さい、小さい鳥]

萱野：そして、よくあの川の水面なんかちゃっちゃ、ちゃっちゃとって飛ぶんですけれども、よく、この **cakcak** [ミソサザイ] のことなんか更科源蔵先生なんかよく書いてるんですけれども、えー、アイヌに熊のいる場所教えたりという、私の父もよく言っておったもんですけれども **ipirma kamuy** [こっそり教える神] といって、よく、その危険を知らせてくれるということで大切にすらしいんですが、その **cakcak** という鳥が来た。そうしたら、こんな小さな、ま、スズメよりちょっと小さいぐらい、村スズメよりちょっと小さい。

鍋澤：んだ、そうだ、そうだ。

萱野：そのスズメよりも小さい鳥なので、そのまま見て見ないふりしておった。そばへ来るのでカッとかっちゃく [引っ掻く] と、その爪の間から逃げたり、**konkon uturu kus** というのは羽の間？

鍋澤：うん、そうそう。毛の、

萱野：毛の間だな？

鍋澤：うん。

萱野：毛の間から飛び去ってしまうという風にするので殺すことができない。何回もやってるうちに自分自身の爪で自分の体をかっチャいで [引っ掻いて]、死んでしまったと。一羽の **huri** が自分で、えー言いました。これの **sakehe** は、えー、今言ったように、なんだ **sake...**

鍋澤：**humhumtoriyate** (笑)

萱野：**humhumtoriyate** ですね。それが **sakehe** で、あれしたわけですね。

鍋澤：(笑い声)